



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: Too Nippo (10 September 2014, Japan)

Page: 4



農業振興について県と意見交換する
APO視察団の一行＝9日、県庁

アジア太平洋地域の20カ国が加盟する国際機構・アジア生産性機構（APO）の視察団が9日、日本の農業生産研修の一環で本県を訪れ、県担当者との意見交換や優れた農産物貯蔵技術を持つ民間企業を視察した。一行は11日まで本県の農業振興などを視察し、先進的な農業モデルや生産技術を学ぶ。（秋元宏宣）

来県したのは、パキスタンやフィリピン、インドネシア、韓国など13カ国の報道関係者ら21人。日本の農業の現場や施策取材して得た知識、情報を報道することで自国の農業の生産性向上に役立てるのが狙い。

7日に来日した一行は農水省で日本の農業の現状を学ぶ。現場視察で本県入り。県庁で農林水産部の成田博部長らから、本県が10年前から取り組んでいる攻めの農林水産業（

の概要や、海外への農産物販路開拓などの説明を受けた。

意見交換でメンバーからは「攻めの農林水産業を推進して農業就業者は増えたのか」との質問や、「リンゴのふじは自国でも売られている。鮮度がよくて驚いている」との意見があった。この後、水溫貯蔵システムを開発した青森市の大青工業を訪れ、農産物の鮮度を維持技術を視察した。

本県の農業技術に関心

アジア13カ国 報道関係者 生産現場など視察

値を高める取り組みも「お祭り、発展の参考に」と村と弘前市、11日に南たなかへある。こうしてほしいと話した。部を訪れ、農産物直たアイデアを首脳に持
一行は10日に田舎館売所などを視察する。